

疾患を持つ子どもたちへの 夢チャレンジサポートプロジェクト

代表者 川田 祐一郎 (医学部看護学科4年)

1. 目的と概要

健康な子どもたちならば、家庭や学校などで遊びを通して、言葉・物の使い方、人間関係、社会的ルールなど多くのことを学んでいきます。それと同時に、その遊びを通してストレスを発散することができます。しかしながら、疾患を持つ子ども、特に慢性的な病気で入院している子どもたちは、病気の状態や治療による制限でストレスがよりたくさんあるにも関わらず、その遊びが病気のせいで制限されてしまいます。

そこでこのプロジェクト事業「疾患を持つ子どもたちへの夢チャレンジサポートプロジェクト」では、子どもたちにより年齢が近く、子どもの病気や生活・発達に関する知識のある私たち学生が、疾患を持つ子どもたちが入院中でも退院しても疾患と上手く付き合いながら、今、そして将来に対して夢を持てるようにサポートすることを提案しました。

2. 実施期間（実施日）

平成22年8月25日 から 平成23年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は具体的に大きく分けて2つです。1つは入院している子どもたちへのサポート、もう1つは地域で生活している疾患を持つ子どもたちへのサポートです。

1つ目の入院をしている子どもたちへのサポートとしては、花火大会、クリスマスの飾りつけのお手伝いを行い、病棟ボランティアを行いました。これらの活動は全て、香川大学医学部附属病院で企画されていることで、その中でも学生にできる準備や、花火をする子どもたちの見守りながら一緒に花火を楽しんだりしました。また、病室から出ることができない子どもたちへは、病棟のスタッフの皆さんと病室の中からも見える位置から打ち上げ花火をしたりしました。クリスマスの飾りつけでは、大きなクリスマスツリーの飾りつけを子どもたちと一緒に رفتり、病棟内にあるプレイルームという

子どもたちが集まって遊びことができる部屋の飾りつけもしました。この部屋の飾りつけでは、病棟にあるものを使ったり、手が空いている時間を利用して学生で協力してサンタクロースなどの壁紙を作成して飾り付けをさせていただきました。

病棟ボランティアでは、香川大学医学部附属病院の看護部の方や病棟の方にこの活動の説明をし、承認を頂いたうえで活動ができるようになりました。毎週土曜日、日曜日の午前と午後に2・3名の学生で行いました。プレイルームで子どもたちと遊んだり、プレイルームに行くことができない子どもたちとは、病室に行き勉強を教えたり、ゲームをしたり絵を描いたり本を読んだりしました。また、子どもたちとの関わりだけではなく、子どもたちの家族の方ともいろいろな話をさせていただきました。私たちが来ている間は、家族の方は病院のコンビニなどへ買い物に行ったり、休まれたりしていました。よく「ありがとうございました。助かりました。」と声をかけてくれます。子どもたちは、何回か私たちが病棟へ行くと顔を覚えてくれて、「この前のお姉ちゃんだ。」と喜んでくれていました。一緒に遊びなどを通じて、入院中の子どもたちへのストレスを少しでも軽減できたり、単調で苦痛を伴う入院生活での楽しみの1つとなっているのではないかと思います。

2つ目の地域で生活している疾患を持った子どもたちへのサポートでは、「コスモスの会」という小児がんの子どもを持つ家族の会の交流に参加させていただきました。9月にはサマーキャンプが行われ、お手伝いをしたり、子どもたちと遊んだりしました。年齢も幅広く、その中でも参加した学生は子どもたちと同じ目線で、同じ気持ちになって子どもたちと元気いっぱい走ったり、話をしたり、笑ったりと、いつも笑顔が絶えませんでした。おもいきりはしゃぐことができ、普段の生活ではなかなかできないことだと思います。また、コスモスの会では講演会もあり、主に闘病生活などの体験談についての講義を聞くことができました。これらの活動を通じて、子どもたちや家族の方の生の声を聞くことができ、机上の勉強や実習だけでは学ぶことができないことを学ぶ機会となりました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

まず、ボランティア活動をさせていただいている香川大学医学部附属病院では、私たちが子どもたちの見守りやイベントのお手伝いをすることで、看護師さんたちの負担を少しでも軽減できていると思います。看護師さんの業務の中では一人ひとりの子どもたちと遊び時間を持つことは難しいですが、私たちが病棟へ行き、一緒に遊びを通して入院中の子どもたちのストレスを軽減できたり、単調で苦痛を伴う入院生活での楽しみの1つになったのではないかと思います。また、私たちが子どもたちと遊んでいる間、家族の方は一人になる時間が持て、少ない時間ですが体を休めることができると思われます。

サマーキャンプでは、参加した子どもたちに夏の楽しい思い出を提供することができたと思います。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

大学の講義や実習で学んだことをボランティア活動を通して活かすことができたと思います。疾患を抱えている方々とより近くで接する機会が増え、看護、特に小児看護で活かせるものを学ぶことができたと思います。病気を持つ子どもたちやその家族の方との交流の時間は、私たち学生が子どもたちからエネルギーを与えてもらう時間となり、とても有意義な時間となりました。

医療に関連したボランティア活動に参加することで、医療に携わる私たちの将来像について考え、これからどのような看護をしていきたいか考えることができる機会にもなっています。学生自身が疾患を持つ人及びその家族の方への理解の向上につなげることができているとおもいます。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

活動メンバーがほとんど4年生で、今年卒業ということもあり、今まで続けてきた病棟ボランティアが私たちが卒業しても続くかどうかと、今後不安に感じています。後輩をしっかりと育てることも大切なことだったので反省しています。また、私がこの事業を計画していく中で、去年の卒業生の方々と上手く引き継ぎができていなかったので、申請の手続きや病棟との連絡調整で戸惑うことが多々あり、この事業を開始する時期が遅くなってしまいました。今後このようなことがないように、これからしっかりと後輩への引き継ぎなどをしたいと考えています。

今年は去年ほどではありませんでしたが、インフルエンザなどの流行で、病棟へ行くことができなかつたりしました。しかし、そんな中でも病棟側と、子どもたちも私たちが来ることを楽しみにしてくださいました。今後の抱負としては、病棟側と連携を取り、軌道に乗せたこの病棟ボランティアが私たち4年生が卒業しても続けてほしいと思います。購入した物品などもうまく活用してもらい、多くの子どもたち、家族の方が満足できるようにしていきたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者	川田 祐一郎（医学部4年）	
構成員	菊本 さやか（医学部4年）	平田 文音（医学部4年）
	岸岡 美希（医学部4年）	前田 幸子（医学部4年）
	島村 沙耶（医学部4年）	森川 加苗（医学部4年）
	末廣 香（医学部4年）	吉岡 万里子（医学部4年）
	世良 瞳（医学部4年）	
	辻 宏道（医学部4年）	
	那須 南（医学部4年）	
	野村 綾香（医学部4年）	